どろんこプロジェクト
2019

美術教育講座　　彫　　刻　加藤可奈衛
陶　　芸　谷村さくら
デザイン　青木　宏子
附属特別支援学校　小学部　縄　真美子
下岡　花子

背景

- **美術教育講座と本校の連携実績；１年計画のものが中心**

- **2018年度の実践より**

  ～取り扱っていない工程（素焼き・釉薬かけ）
  児童が「自分のもの」と捉えることができるように

  ～附属特別支援学校内での研究の位置づけと情報共有

  ～美術教育講座の学生を巻き込んだ実践へ

- **土粘土に関する文献調査を踏まえて**

ねらい

土粘土の感触遊びから造形表現活動へ授業展開することを通して、

①　美術教育講座と特別支援学校との**連携促進**を図る。

②　児童の土粘土の**操作の変容(手指の巧緻性）**をまとめる。

③　**主体的・対話的で深い学び**の視点から、学習環境設定について考察する。

実施期間・内容

- 期間：2019年9月～12月（全21時間）

- 場所：附属特別支援学校集会室
  および　柏原キャンパスF・G棟

- 対象：附属特別支援学校小学部児童17名　保護者16名

- 内容：保護者ワークショップ
  授業実践Ⅰ　粘土の再生活動
  授業実践Ⅱ　窯業窯の見学～作品作り（釉薬かけ体験）
  授業実践Ⅲ　鑑賞会

＜どろんこプロジェクト2018　全工程＞

土塊を叩く
・割る

篩に
かける

泥粘土づくり

身体を使った
お皿づくり

贈呈式・鑑賞

＜どろんこプロジェクト2019　全工程＞

土塊を叩く・割る

篩にかける

泥粘土づくり

窯業窯見学

釉薬をかける

贈呈式
鑑賞

保護者体験ワークショップ・意見

お皿に絵を書いたり、久しぶりに頭の中、無になれました☺　有難うございました。

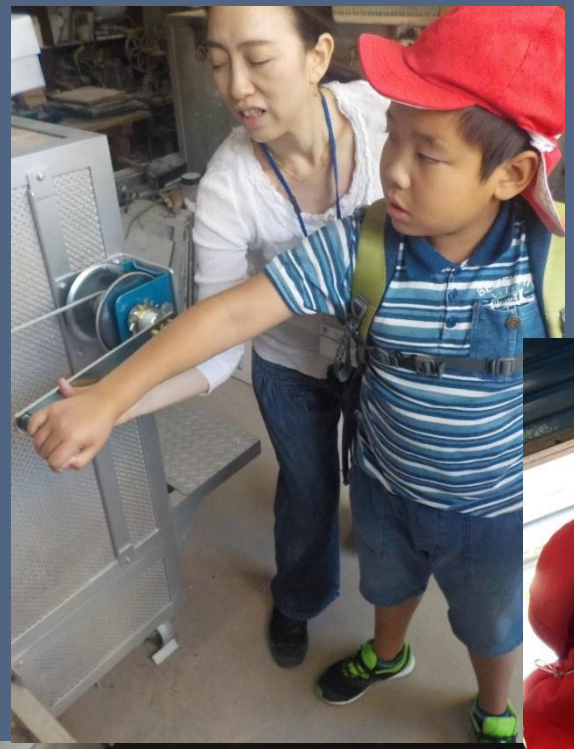
絵付け体験楽しかったです。（略）絵付けの最後に透明の液か白色の液かの**仕上げ見本があればよかった**です。（略）できれば他のお母さんの作品も見てみたいです。

できあがりの色は知っておいた方がいいと思います。私も忘れかけたので・・・

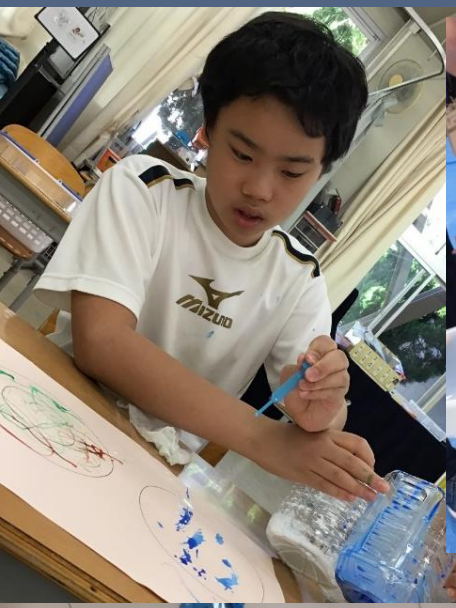
色がかわるのを理解するのはまだまだ先ですね。できあがりはキラキラした感じになるのでどんな色でも**しっかりぬったら「キレイ」とよろこぶのではないか**と思います。

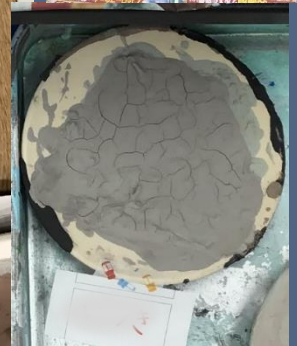
授業実践Ⅰ　粘土の再生活動

授業実践Ⅱ
窯業窯の見学

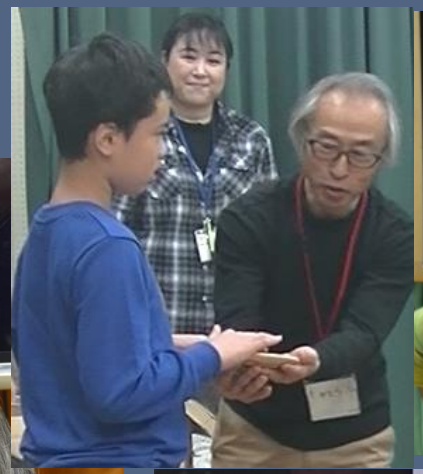


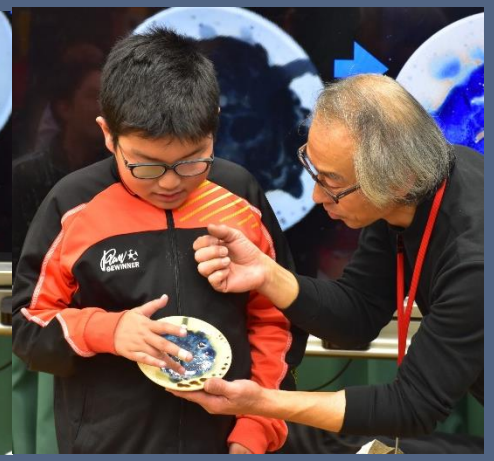
授業実践Ⅱ
釉薬かけ体験

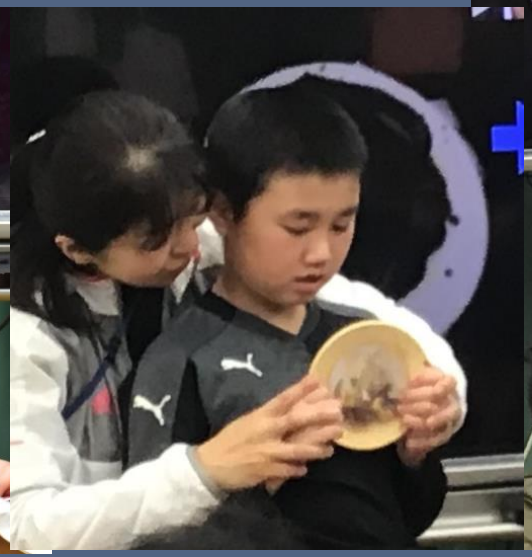




授業実践Ⅲ　鑑賞会







まとめと考察

土粘土の感触遊びから造形表現活動へ授業展開することを通して、
① 美術教育講座と特別支援学校との連携促進を図る。
② 児童の土粘土の操作の変容(手指の巧緻性）をまとめる。
③ 主体的・対話的で深い学びの視点から、学習環境設定について考察する。

美術教育講座　加藤可奈衛

①について

- 教員にとって：
  継続による大学教員間の授業・ゼミ等の情報共有・連携強化
  特別支援学校教育課程を意識した学生への
  教育指導の展開・充実

- 学生にとって：
  現場実践体験の機会の提供
  特別支援、インクルーシブ教育についての学び

まとめと考察

土粘土の感触遊びから造形表現活動へ授業展開することを通して、
① 美術教育講座と特別支援学校との連携促進を図る。
② **児童の土粘土の操作の変容(手指の巧緻性）**をまとめる。
③ 主体的・対話的で深い学びの視点から、学習環境設定について考察する。

特別支援学校　縄真美子　下岡花子

②について

- 2018年度：全員が粘土に触ることができた
- 2019年度：
  それぞれの粘土の形状に、共通のことばや表現が生まれた
  粘土の形状ごとの児童の様子に着目し、一覧表にまとめた（表１）
  釉薬かけの体験＝使用する道具の広がり

表１　小学部児童の粘土の形状に対する様子　　（単位：人）

形状ごとの児童の表現	触り続けることができる			教員の働きかけや周囲の様子をみて触ることができる			触ることができない			計
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
かたい・おもいねんど（土塊）	6	6	5							17
パラパラ（小石状）	6	6	5							17
サラサラ（砂状）	6	6	5							17
シャバシャバ	4	2	5	2	4		1			17
どろどろ	2	2	3	3	4	2	1			17
ベタベタ（ホイップ状）	1	2	3	4	4	2	1			17
ねんど　※	3	5	5	―	―		―	―		13

まとめと考察

土粘土の感触遊びから造形表現活動へ授業展開することを通して、
① 美術教育講座と特別支援学校との連携促進を図る。
② 児童の土粘土の操作の変容(手指の巧緻性）をまとめる。
③ 主体的・対話的で深い学びの視点から、学習環境設定について考察する。

③について

- ２～６年生：見通しをもった主体的な参加
- 新入生への事前の配慮
  → 継続する中で、今後も経験の差をどう埋めるかは課題

- 内容：釉薬をかける体験をへて、全工程を体験
  「かま」で焼くことで、色の変化がおきることに気づく

- 大学教員や学生の授業参加と児童の学びへの影響
  → 児童の期待の高まりとの関連の検証が必要

2020年度に向けて

- 工程の中でも、感触に重きをおくか
  作品作りに重きをおくのか

- 新入生の児童と他の児童の経験の差をどう埋めていくか